

Information

AIMSグリーンケアプログラム
参加家族募集中

平成28年
5月22日(日)/7月10日(日)
9月11日(日)に決定

詳細は、AIMSのホームページをご覧ください。
(開催は東京都内。参加は無料)

http://www.aims-japan.org/

AIMS代表 高井伸太郎さんからのメッセージ

西野様親子がAIMSグリーンケアプログラムに参加していただいたことで、新たなスタートを切ることができたと伺い、大変嬉しく思っています。

親御さんを亡くされた子どもは表面的には平静を装っていても、心の中ではさまざまな気持ちが揺れ動いています。ですから、子どもさんの気持ちを安心して表現できる

AIMSのような場所が必要だと思います。

今後も安心・安全な環境の中で、遊びを通じ、自分の気持ちを表現できる場所を設け、お子さまの心のケア、グリーンケアを行い、健全な成長サポートをしていきたいと考えています。

ご興味のある方はぜひAIMSにお問い合わせください。

ママを癌で亡くされた父子のお話

エ イ ム ス A I M S が僕たちに光をくれた

病気で親を亡くした子どもたちの心のケアに取り組むAIMS。18年間連れ添ってきた奥さまを亡くされた西野さん(仮名) ご家族は、AIMSに参加し、明るさを取り戻すことができたそうです。その悲しみから再出発までの物語をうかがいました。

【取材・文・撮影●鈴木健太】

このままではマズいと思い、早速AIMSにメールを送った西野さん。すると「2日後にグリーンケアプログラム(※1)があるののでぜひ参加してください」との返事が。

「子どもがプログラムに参加している間、大人も別の部屋で保護者用のプログラム(※2)に参加できるのですが、そこへ2013年11月に初めて参加し、僕と同じような境遇の親御さんたちとたくさんお話ししました。特にアドバイスとかではなく『僕の場合はこうでした、私の場合はこうでした』と話すだけなんですけどね。いくら親戚の人が手を差し伸べてくれても受け入れられなかったのに、同じ境遇の人が同じ空間にいるだけで、心が通じ合える感覚になれたんです」。

その中には、西野さんよりももっと前にパートナーを亡くされた先輩もいました。

「その方たちはしっかりと前を見据えて歩いていて、いつか僕もあいつ風になりたいなって。当時、僕は暗闇の中を手探りでもがいていたのですが、AIMSに来て遠くの方に光が見えるようになりました。あっちの方にいけばトンネルは抜けられるという感覚。AIMSに行った日から僕の再スタートがはじまりました」。

2カ月後、再度グリーンケアプログラムに参加する際、西野さんは良平くんにとある変化を感じました。

「『今日どこ行くの?』って聞くので『AIMSだよ』と答えると『ああ、あそこね、行ってもいいよ』なんて生意気言うんです(笑)。でも、目が嬉しそうにしているのは親の目から見て明らかでした。これまで習い事の一日体験をさせたときは『またあそこ行く?』と聞くと『行きたくない』って言うことが多かったのに」。

取材当日、「AIMS楽しかった?」と聞くと「うん。同じ子」がいたから」と答えてくれた良平くん。お父さんが感じた同じ境遇の人という居心地の良さを、彼も感じていたのかも知れません。

西野さん自身も、2回目の参加で周りから「顔変わったね」「明るくなったね」と言われ、本来の自分を徐々に取り戻していききました。5回目以降は自分のためというよりも良平くんのため、そしてグリーンケアプログラムへ新たに参加しにくる親御さんのために何とかしてあげたいという思いで参加を続けたそうです。

「おこがましいかも知れませんが、僕がAIMSの先輩から受けたサポートを、同じ境遇の方にもしてあげられたらと思います。プログラムには10回参加しました。僕はたまたま友人の紹介でAIMSを知ることができ、立ち直ることができましたが、パートナーを亡くされた方は、すぐにそういう情報を入手する余裕すらないのも事実です。だから、この記事を読んでもの方の中に同じ境遇の知人がいるならば、ぜひAIMSの存在を伝えていただきたいですね」。

奥さまに先立たれ知らぬ間にうつ病状態に

西野さんが、医師に「奥さまの乳癌が脳に転移した」と伝えられたのは、2012年の10月でした。

「それを聞いたとき、さすがにがっくり来ましたが、妻や子どものためにあれもこれもしなきゃという思いが強まり、正直悲しんでるヒマはありませんでしたね。もちろん、医学的データから見ても、一年もたないかもという覚悟はしていました」。

そのとき、息子さんの良平くんは4歳。西野さん夫婦は、なるべく隠さず病のことを伝えていたそうです。

「突然、母親がいなくなるという方がもともと混乱しますから。闘病中も3人で暮らしていましたし、かわいそうだけど事実を見せてあげた方がいいという思いでした」。

奥さまは「私は60歳まで生きて良平に赤いちゃんちゃんこを着せてもらうの」と生きる希望を強く持ち続けましたが、翌年6月、天国へと旅立られてしまいました。

「良平には『お母さんは病気に負けてしまったんだよ』と伝えました。そのときは『えーっ?!』と大声を上げましたけど、泣いてはいなかった。恐らく葬式のときも母親の死を理解しきれてなかったと思います」。

奥さまの永眠後、ふたりでの新たな生活が始まりました。西野さんは、これまでの生活スタイルを変えず、ご親族のサポートも極力受けなかったそうです。

「妻も私も自分たちの気持ちは押し殺し、最後まで本当に普段通りに過ごしました。僕ら3人で固い絆の家族が成立していたんです。それは2人になっても変わらない。そこに違う人が入り込んでくるのが、どうしても受け入れがたくて。私の母もサポートしたいと家に来てくれたのですが、僕が3日で耐えきれなくなり帰ってもらうことにしました」。

そんな中、自分が子育てをしなくてはという思いが強すぎたのか、体に変調をきたしはじめた西野さん。3日間眠れない日もありました。

「後日、心療内科に行ったら『完全なうつ病だね』と言われました。自覚はなかったのですが、やはり妻を亡くしたこと、その後の生活のことでストレスが溜まっていたんですね」。

子どもは自分以上に傷を負っているかも知れない

そのことを高校時代の同級生に相談したとき、その友人が教えてくれたのがAIMSでした。

「当初、良平は母親の死への反応が薄いように見えたので『まだ小さいから何も分かってないのかな』とのんきに考えてたんです。ただ、保育園でトイレに行くことを先生に言えず、おもらしをよくしていると聞き『良平は自分以上に傷を負い、なにか心理的負担を抱えているかも』とかすかに思うようになりました。そんなとき、AIMSのホームページを見たら『子どもの心のケア』への必要性が謳われていて……」。

AIMSに行った日が僕たちの再スタート

お話をうかがったのは……
西野太一さん(仮名) 44歳
一児のパパ。2013年6月、奥さまを癌で亡くされています。奥さまは37歳の若さでした。

長男・良平くん(仮名) 7歳
今年の春に小学2年生になる元気な男子の子。

aims

ミキハウスはAIMSの活動に賛同しています。

創立者: 小林 真理子 - 故人 -

顧問: 浅利 慶太 (劇団四季前代表)

井上 孝代 (明治学院大学名誉教授 臨床心理士)

上田 紀行 (東京工業大学リベラルアーツセンター長・教授)

漆 紫穂子 (品川女子学院校長)

鎌田 實 (諏訪中央病院名誉院長)

川井 郁子 (ヴァイオリニスト)

川越 厚 (医療法人社団パリアン理事長)

野島 直樹 (NHK交響楽団前理事長)

(敬称略・五十音順)

代表: 高井 伸太郎

事務局長: 小林 孝雄

理事: 明石 由紀子

池上 三六

上野 雄介

Aki Shelton

三浦 建太郎

(博士 医療福祉学)

監事: 唐津 真美

(弁護士)

(弁護士)

〒116-0013 東京都荒川区西日暮里6-13-12-1103

特定非営利活動法人AIMS 2011年8月設立

2012年4月特定非営利活動法人として登記

■AIMSに関するお問い合わせ

お問い合わせはメールにてお願いいたします。随時返信させていただきます。info@aims-japan.org

AIMS設立のきっかけは……

AIMSは、現代表・高井伸太郎さんのお姉さまである故・小林真理子さん(元NHKアナウンサー)の強い想いからスタートしました。

2011年、43歳という若さで小林さんは逝去されました。「風邪もひかない元気な体質」とご本人も思っていました。が、体調の異変に気付いたときには胃癌のステージIV。「卵巣にも腹膜にも転移している」と主治医から余命を告げられました。「自分のことはすぐに受け止められただけで、何より心配だったのが幼い娘のこと、その心でした」と生前の小林さんは記しています。

幼く、まだ十分に自分の想いを周囲に伝えられない娘の心のケアはどうしたらいいのか――調べていくと日本にはそのようなケアやサポートを中心に行っている組織がなかったのです。「ならば、私が創ろう」。母としての大きな想いが、AIMS設立の第一歩でした。

娘さんを抱っこする、元気だった頃の小林真理子さん。